

2011 年 1 月 29 日

太秦・嵯峨野地域の遺跡 —古墳出現前夜—

(財)京都市埋蔵文化財研究所 辻 裕司

1 太秦・嵯峨野地域

- ・太秦・嵯峨野地域は、現在の行政区名では京都市右京区の南西部に属する。おもに、東部の太秦地域は、太秦・常盤・山越・鳴滝および宇多野など周辺地区、西部の嵯峨野地域は、嵯峨野・嵯峨・北嵯峨および周辺地区が含まれる地域である。地理的には、おもに、北・西は丹波帯の山地、南は桂川および有栖川、東は御室川によって画された地域で、概して、有栖川・御室川などの河川によって形成された扇状地形の平野部と、北部山麓地域に相当する。遺跡は、平野部と、北部山麓地域に分布する。

2 太秦・嵯峨野地域の遺跡

- ・太秦・嵯峨野地域における古墳出現前夜まで遺跡には、先土器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代前・中期の遺跡がある。
- ・先土器時代
菖蒲谷池遺跡では、ナイフ形石器やチャート製の尖頭器などの旧石器が採集されている。菖蒲谷池遺跡の石器は、おもにチャートを石材に利用する。
広沢池遺跡や沢ノ池遺跡では、サヌカイト製のナイフ形石器が採集されている。
- ・縄文時代
前掲の菖蒲谷池や広沢池では、縄文時代の石器が採集されている。
蜂ヶ岡中学校(上ノ段町遺跡)では、縄文時代早期・前期の遺物が出土。
嵯峨院跡下層では、縄文時代中期の土坑を検出。天龍寺隣接地では、晩期の土器が出土。
天龍寺境内下層では、縄文時代中期の土器が出土。
村ノ内遺跡では、縄文時代中期の土坑を検出。

・弥生時代

- 梅ヶ畑遺跡では、弥生時代中期の銅鐸が工事中に偶然発見された。
- 天龍寺境内下層では、弥生時代の土器が出土。
- 村ノ内遺跡では、弥生時代中期の遺物が出土。
- 西野町遺跡では、弥生時代と考えられる竪穴住居を検出。
- 和泉式部町遺跡では、弥生時代中期の竪穴住居を検出。

・古墳時代(古墳出現期まで)

- 村ノ内遺跡では、古墳時代前期の遺物が出土。
- 西野町遺跡では、古墳時代前期の竪穴住居を検出。
- 和泉式部町遺跡では、古墳時代前・中期の竪穴住居を検出。中期の竪穴住居には鉤形に折れ曲がる竈を付設したものがあ。韓式系土器や初期須恵器出土。

3 まとめ

- ・太秦・嵯峨野地域における古墳出現期までの遺跡分布
- ・和泉式部町遺跡における弥生時代中期、古墳時代前・中期の竪穴住居
- ・太秦・嵯峨野地域における古墳出現期



図 1 太秦・嵯峨の地域の地形



図2 先土器時代の遺跡

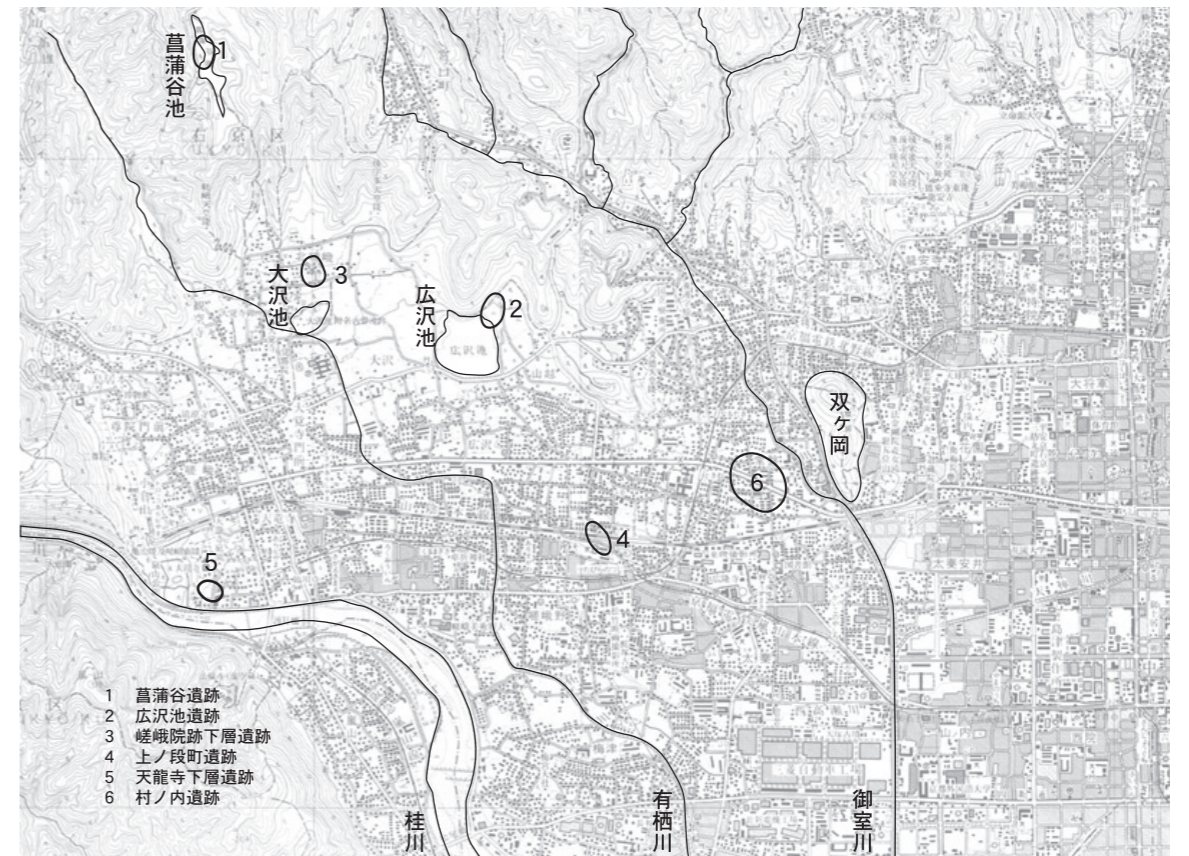


図5 縄文時代の遺跡

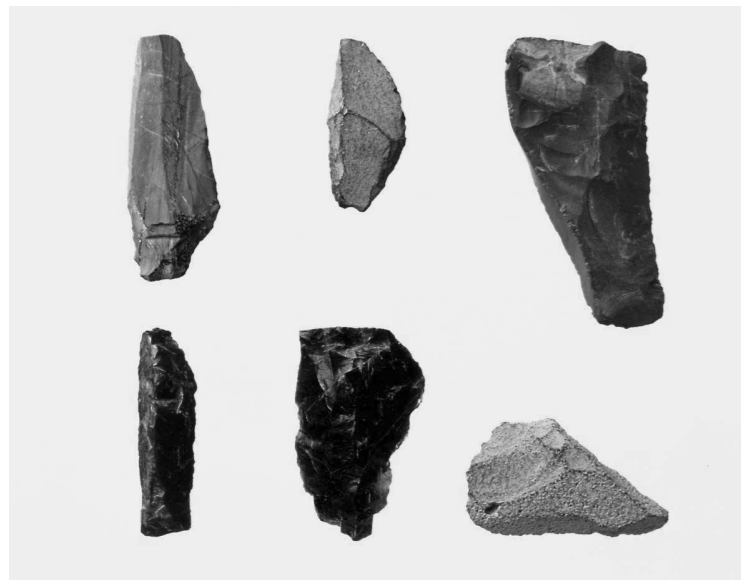


図3 菖蒲谷池遺跡出土石器

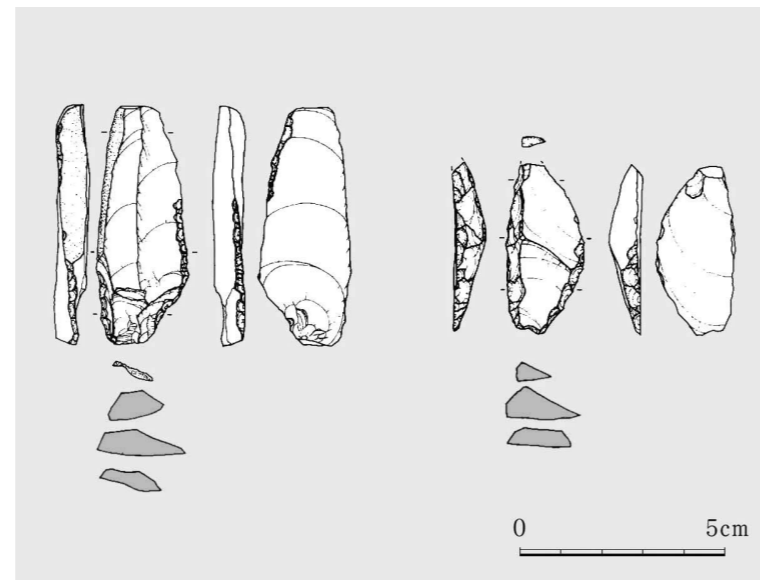


図4 菖蒲谷池遺跡出土石器

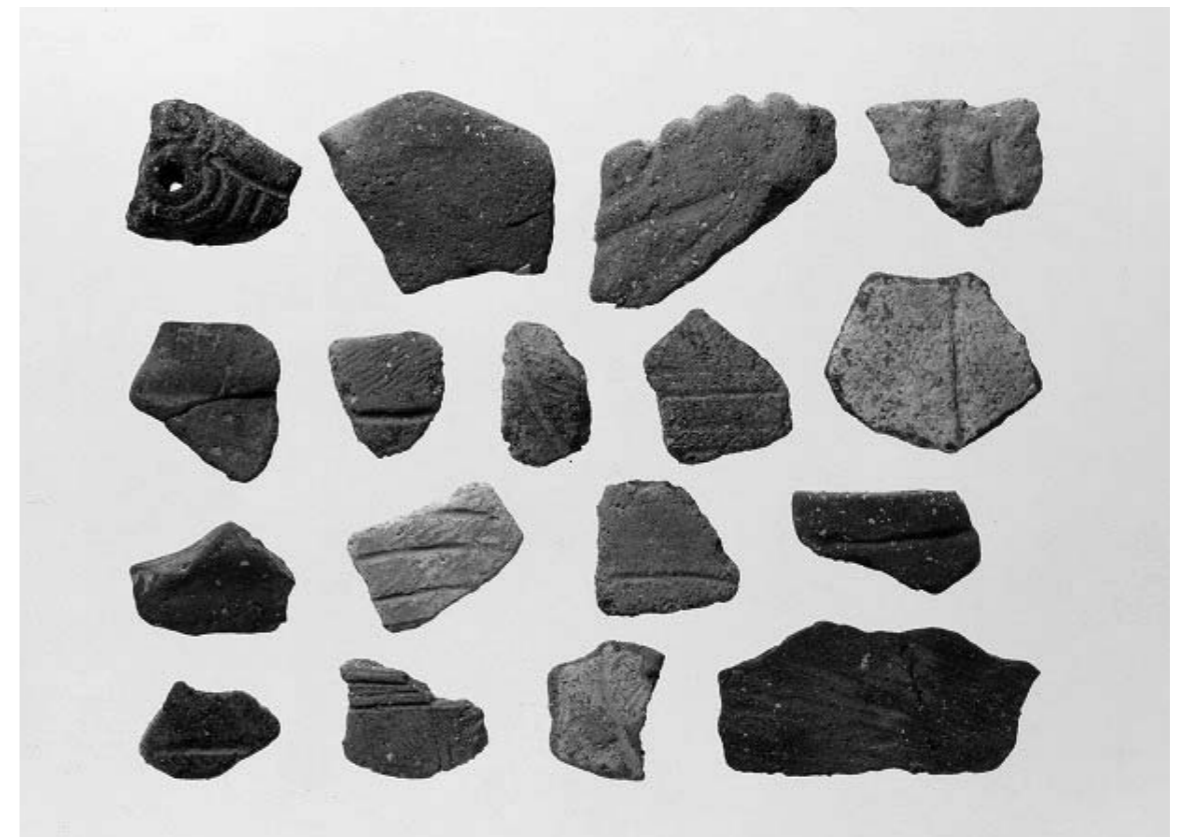


図6 縄文土器

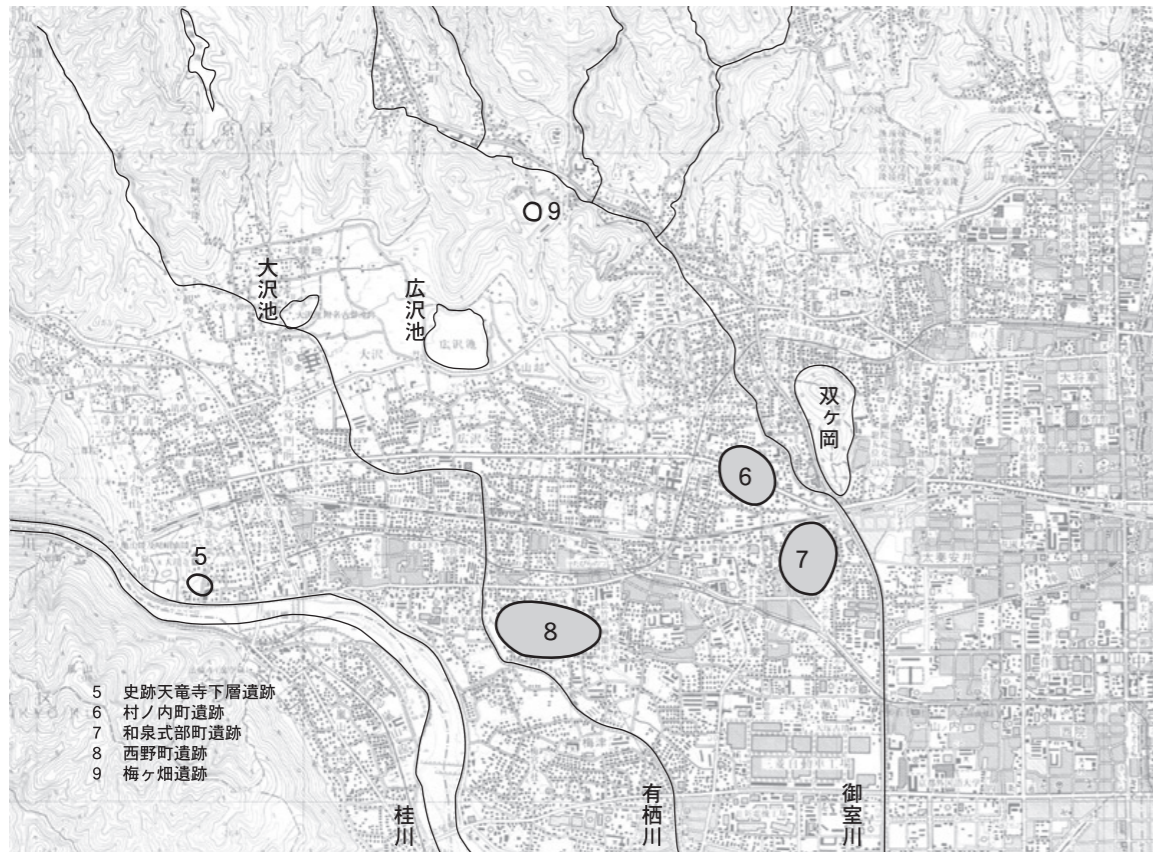


図7 弥生時代・古墳時代中期までの遺跡



図9 和泉式部町遺跡
弥生時代から古墳時代中期の竪穴住居跡



図10 和泉式部町遺跡
弥生時代の竪穴住居



図8 梅ヶ畑遺跡 出土銅鐸



図11 和泉式部町遺跡
古墳時代前期の竪穴住居(住居の拡張)



図12 和泉式部町遺跡
古墳時代中期の竪穴住居



図13 和泉式部町遺跡
弥生時代の台付水差

図14 和泉式部町遺跡
古墳前期時代の手焙形土器



図15 和泉式部町遺跡
古墳時代中期の韓式系土器（縄蓆文）

***** メ モ *****

<今後の講座予定>

- 第223回 2011年2月26日 シリーズ 太秦・嵯峨野 第2回『古墳の時代 秦氏登場』
(財)京都市埋蔵文化財研究所 高橋 潔
- 第224回 2011年3月26日 『2010年をふりかえって』 (財)京都市埋蔵文化財研究所 吉崎 伸
- 第225回 2011年4月23日 シリーズ 太秦・嵯峨野 第3回『古墳の時代 巨大古墳の系譜』
(財)京都市埋蔵文化財研究所 丸川義弘